

91点

世界文学

の水準に達している

『死の博物誌』

——石原慎太郎

文字通り、人の死の様々なケースを、スローモーションで緻密に再現してゆきながら、主人公の若者の成長を描く。死への凝視、物語としての興味、構成、着想ともに卓抜で、文学的感興も極めて高い。

現役作家 100 人、主要 505 作品を
＜厳正＞かつ＜徹底的＞に採点！

作家の値うち ^{スーパー} 令和の超ブックガイド

小川榮太郎 著 飛鳥新社

